

民間まちづくり会社とNPOによる御祓川再生活動

森山奈美((株)御祓川)

私どものフィールドは七尾市の川でございます。御祓川ですけれども、5月に行われるお祭りのとき、御祓川沿いが一番にぎわいます。昭和30年代から40年代にかけての高度成長期に御多分に漏れず、いわゆる都市河川の汚染という道をたどりまして、今でも夏場になるとちょっとメタンガスが発生して臭いという川です。

七尾湾というのは、能登島を天然の防波堤にして、とても天然の良港として、万葉の時代から栄えていた港です。

私どもの活動は、この港を中心としたまちづくりです。食祭市場が「まちづくり」を進めていく中での中心的な活動になりました。その港の活動が川に戻ってきました。

食祭市場には今、年間90万人ぐらいのお客さんが来ています。ここの集客力を中心街に持ってきて、点を線にして、それをさらに面にして、回遊性のあるまちづくりをしようというのが、昭和の終わりぐらいにつくった構想です。これを今、実行している最中ですが、ちょうど今、このシンボルロードという軸づくりをやっている中で、軸上にあったのがこの川です。

ですから、この港のまちづくりから、軸づくりに進もうとしたときに、やはりこの汚い川をこのままにしておいてはいけないだろうということをつくったのが、株式会社御祓川という名前の民間まちづくり会社です。

大きく3つの事業の柱がございまして、その1つが名前のとおり、御祓川の浄化にかかわる事業、2つ目が川をまちの側から再生していこうという、界隈のにぎわい創出事業、3つ目が、川と人との関係を再生していこうというコミュニティー再生事業です。

1つ目の御祓川の浄化にかかわる事業に関しては、御祓川浄化研究会というのがメインになっています。浄化実験を大学ですとかNPO、それから行政で市民が入ったような研究会、協同研究体をつくってやっています。

こういうピオ・パークというものですけれども、クレソンを植え、このクレソンを売って、この浄化施設の維持費に当てています。さらにクレソンそのままじゃなくて、クレソンでケーキをつくって、クレソンケーキを売り出したところ、大変好評で、ここの維持費が出せるぐらいになっています。今、こういう社会的に循環型のシステムになろうかとしているところで、実験は3年目になりました。

2つ目の界隈のにぎわい創出に関しては、川沿いにいいお店をどんどん連ねていこうということをやっています。直営店は、工芸品店や能登の「いしり」を使った食事どころ、それから2階は研修室になっています。株式会社御祓川が整備して、テナントを入れ美容院が入っています。ここで川の話をしながらかットしていただいて、きれいになった女の人をどんどん川沿いに送りだしてくれるというところです。

3つ目のコミュニティー再生の事業はNPO、法人格は持っていないんですが、「川への祈り実行委員会」と

というのが中心になっています。川と市民の関係を取り戻そうという目標が主眼になっていて、川は友達という言葉で活動をしています。川掃除、川遊び、排水路の水質調査ワークショップ、冬場はふるさとの川セミナー、排水路対抗浄化大会というのをやっています。まだ下水道が完備していないので、排水路がどのお宅から流れてきたものが一番きれいになるかというのを競うというゲームや、コンサートをやって、皆さんに浄化を訴えたり、源流に遠足に行ったりしています。

そういう3つの柱の中で、いろいろなネットワークができており、テーマごとにごちゃごちゃといろいろなネットワークがあるというのがわかっていただければいいと思います。

もう一度、先ほどの3つの事業というのが一体何をあらわしているのかというのを見直してみると、この御祓川の浄化というのは自然資源の循環を目指していこうというまちづくりを目指しています。2つ目の界隈のにぎわい創出というのは、地産地消の問題も含めて、地域経済の循環を目指そうと。そしてコミュニティー再生というのは、ほかならぬ、まちを大切に思う心ですとか、このまちの自然を大切に思う心という思想を次の世代につなげていくということで、私たちの活動を一まとめにして、家と店とまちの関係、家というのは人ですけれども、人と店とまちの関係を再生しようということを目指しています。

活動する中で見えてきたことの中で、志を伝えるというか、「私たちはこういうことを目指してまちづくりをやっているんですよ」ということを感動と共感を呼ぶようなスタイルで、和を広げていくということが特に大事だと思っております。

【ポイント】 行政の最初の計画を地元の人たちが真剣になって話し合いをしているところがわりと事例的には成功していると思います。また、「感動と共感」が一番強調したいところです。

【ポイント】 海に戻った活動もしています。やはり七尾湾をどうしたいんだというイメージを人間の文化で伝えていくということがとても大事だと感じています。

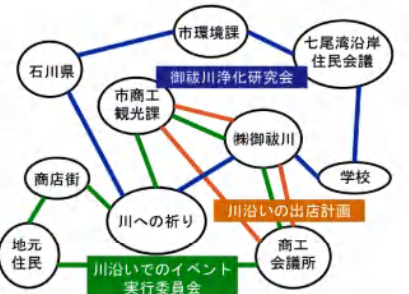
【ポイント】 活動を発案する主体ですが、お金の捻出の方法も大体一緒に考えます。

【ポイント】 トップダウン型で話を決めたほうが早く進むものに関しては会社で、それから合議制で何か物事を進めたいいいものに関してはNPOでという対応をしています。

(本稿は、森川さんの発表をもとに事務局がとりまとめたものです)

民間まちづくり会社と NPOによる御祓川再生活動

Misogi River Restoration Project by NPO and a Private Sector



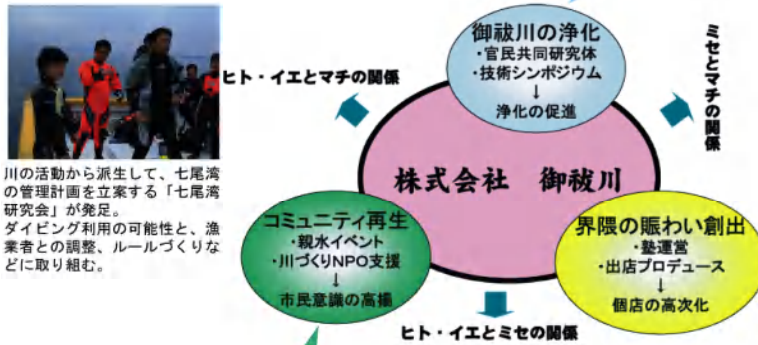
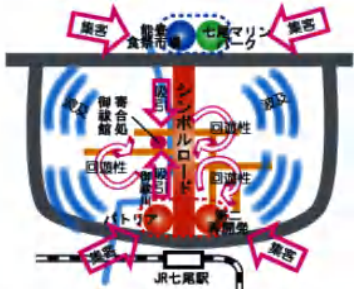
各プロジェクトごとに様々なネットワークが組まれていく

産官学民による「御祓川浄化研究会」が御祓川の浄化方策を検討し、浄化実験を展開

手づくり浄化実験装置のビオパーク
ビオパークで育つクレソンをケーキにして販売

1リングにつき100円
1束100円
川への祈りFUND
クレソン
ビオパーク維持費
御祓川の浄化

おいしく食べて、浄化に協力できる御祓川方式の循環型浄化システム



川沿いに質の高いお店を誘致することで、まちの側から川の再生を目指す

旧十二銀行の建物を再生し、寄合処御祓館を整備。工芸品店と能登独特の調味料「いしり」を使った飲食店を直営。

川沿いの美容院は、髪を切りながら川やまちづくりの会話が交わされ、カウンターからは御祓川を見下ろす。綺麗な女性をどどん川沿いに送り込んでくれる。

川への祈り実行委員会の活動を中心に「川と市民の関係を取り戻す」活動を展開
合言葉は川はともだち

毎月第二日曜日の川あそび&川あそび
御祓川浄化 見事な成果
源流探検
御祓川まつりふるさとの川セミナー
川への祈りコンサート
排水路対抗浄化大会
真調査結果
尻屋ら家庭に協力訴え 優勝はYASチーム

活動の目指すもの

株式会社御祓川は、七尾の中心を流れる御祓川とその界隈の再生を目指す民間まちづくり会社である。御祓川の浄化、界隈の賑わい創出、コミュニティ再生の3つの柱によって、川を通して「ヒトとミセとマチの関係を再生」することを目指している。では、産官学民の共同研究体で浄化実験を行い、クレソンを用いた御祓川方式の浄化装置を開発。では、川沿いに高品質のお店をつくることで、まちの側から川再生を狙う。は、直接的に川と市民との関係を取り戻すため、川づくりNPOの活動を支援している。

活動場所について

石川県七尾市は、古くから天然の良港として栄えた港町である。その中心市街地のさらに中心を流れる御祓川は、延長約8.5kmで、汚染の進んだ典型的な都市河川である。活動の中心は、河口から1.2km程度の下流部分となるが、活動を続ける中で、森や海へとフィールドが広がっていく。

活動期間、頻度について

1999年6月に民間まちづくり会社「御祓川」を設立。2000年4月に、川沿いに直営店をオープン。同7月にプロデュース店をオープン。これらは、に位置づけられ、それぞれの定休日以外は、毎日営業し、川沿いの賑わいを創出している。前述の中心となっている「御祓川浄化研究会」は、2001年6月より、年間3回程度の研究会で情報交換をしながら、浄化実験等を続けている。の活動から派生して「七尾湾研究会」が2004年に発足し、漁業者とレジャー利用者の協働で七尾湾管理計画の立案を目指す。の中心となっている「川への祈り実行委員会」は、月1回程度の会合を開き、毎月第二日曜日の川あそび&川あそびに加え、年間5～6回程度の川と親しむイベントを開催している。

関係者について

御祓川は地元の民間企業経営者8名の出資によって設立され、現在は増資されて20名の株主。常勤スタッフは1名、パート4名(直営店)。各プロジェクトごとに様々なネットワークを組んで事業を進めている。「御祓川浄化研究会」は、産官学民の共同研究体として、県・市のほか浄化技術関連企業や学識経験者が参画している。「川への祈り実行委員会」は、主婦やサラリーマン、自営業者など、多様な構成のNPOである。これらの主体が中心となって、プロジェクトごとに様々な組織とネットワークを構築している。
例) 泰平橋開通イベント: 都心軸まちづくりワーキング(公共事業への参加の場)、川への祈り、御祓川、商店街による実行委員会など

株式会社 御祓川

(連絡先) 〒926-0804 石川県七尾市生駒町16-4 TEL 0767-54-8866 FAX 0767-53-4811
(インターネット) <http://www.noto.or.jp/nanao/asi/> <http://blog.goo.ne.jp/kawainori/>

MISOGIGAWA Co.Ltd. (Environmental Development)

(Contact point) 16-4, Ikoma-cho, Nanao, Ishikawa, 926-0804, Japan Phone +81-767-54-8866 Facsimile +81-767-53-4811
(Web page) <http://www.noto.or.jp/nanao/asi/> <http://blog.goo.ne.jp/kawainori/>